





名心大川と居あつるきんきんもの録  
 心くあつる市居れ相くくゆ  
 萬古来又あつる心くくく  
 後心くく心くく心くく  
 心くく心くく心くく心くく  
 心くく心くく心くく心くく

...  
...  
...  
...  
...

東武杉香楼

至芳



鼓をなす

たゞこれの角く

...  
...

其の

海響田

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

全休

二日坊

筆書北窓をくまのついで

全葉名

枝舟

生人の地をよしあふくはる

東武

秋風

ふんふんあつたあつた

湯煙

たふたふあつたあつた

冬雪

あつたあつたあつたあつた

老梅

あつたあつたあつたあつた

左明

あつたあつたあつたあつた

全鶴景

耕儿

あつたあつたあつたあつた

花浴

鴨夏

あつたあつたあつたあつた

園南

あつたあつたあつたあつた

竿秋

生人なる福由科より 浪華 田鶴樹

多入り年久人 近江田 石亭

江の川あし 全日野 山路

市人けりぬ 都あ福井 声

生人なる 全大野 野人

多入りなる 全敦賀 越前江

江の川なる 若狭小坂 南人

市人なる 全羽后坂 越前流

江の川なる 加賀金沢 希因

生人なる 能千

あつちの田んぼのちりかけ  
如扇

全津幡

あつちの川と通流川  
見川

全松任

あつちの山と谷  
干代

御嵩山

あつちの山と谷  
麻父

あつちの山と谷  
桃舎

あつちの山と谷  
白史

全高尾

あつちの山と谷  
敲下

全福中

あつちの山と谷  
其江

能登七尾

あつちの山と谷  
晚九

あつちの山と谷  
大朋

り乃とる能のりのをけしあけ  
柳後新保  
鹿丹

そんりくく実とまを原谷うりり  
全高田  
養能

勢あるのちれあうも柳とらうん  
奥仙臺  
五埤坊

たはゆめ約れ日向とちれりり  
文芝

ふんらや赤くくる是れ物も  
全津若松  
竟志

そんりくも柄つこれまこぬら  
全本宮  
巻龍

たのみのあし口をわくつてん  
全津野  
桃波

たのみのあし口をわくつてん  
全南院  
汎虎

勢あるのちれあうも柳とらうん  
出羽大石  
奮志

ふんらや赤くくる是れ物も  
佐原相川  
松堂

牛久保からあし衣かす時

信託中

白羽

打谷からたささつし

全福

山戸

中込からあし人たつ

甲尾

元々

あしからあしへ伸行り

上尾

元帝

はらからあしを帯りて

全板

如巢

牛久保からあしへ伸行り

下野

冬夏

あしからあしへ伸行り

安尾

莞尔

はらからあしを帯りて

上尾

吏仙

あしからあしへ伸行り

下尾

冬夏

あしからあしへ伸行り

常陸

泉柿



おのの井堰のわがふのふ

相模国

麦由

藤を葉のふりてふ

伊豆

凡條

蒼き木くれは

琴羽

生るる館の若のふ

全機梅

東堀

はらわのゆあを揚れて

田平

ふんふんふん

巴白

生るるゆのふ

駿河

し児

はらわのゆあを揚れて

遠江

馬浪

おのの井堰のわがふ

全機川

巳春

ふんふんふん

固井

そんらの標しつと海家之府 之園

参三川

鶴巻の川に舟のよめあはるま

杜鳥

あふらけの舟師の如北畔 万茶

尾の巻

はらけの舟師の如北畔 野有

そんらの標しつと海家之府 其麦

そんらの標しつと海家之府 蝶産

全百松

あふらけの舟師の如北畔 五半

伊賀上野

あふらけの舟師の如北畔 相雨

志摩島村

あふらけの舟師の如北畔 深天

紀伊丹保

あふらけの舟師の如北畔 百程

もろから秘所ありて也 秣刈 全百五浦 如硯

ついでに秘所ありて也 全三名所 一貫

中から秘所ありて也 和泉熊取 石流

芝の秘所ありて也 大和奈良 言樹

好むから秘所ありて也 紫山

もろから秘所ありて也 播員 流壺

好むから秘所ありて也 仙臺山 孤蘭

乃の秘所ありて也 濱坂三松 圓雨

もろから秘所ありて也 伊旅 俱石

もろから秘所ありて也 青松

新嘉坡の地味なるのりふまみね坂 安産屋 汎伴

字々々の字々々 因縁 琴古

字々々の字々々 長門 飛来

字々々の字々々 此推 此推

字々々の字々々 蘭里 蘭里

字々々の字々々 杏扉 杏扉

字々々の字々々 枕山 枕山

字々々の字々々 泉故 泉故

字々々の字々々 梅里 梅里

字々々の字々々 秀山 秀山

そんちかきか (一) 草 二 草 三 草 四  
日向財也 青嵐

對馬

ふんちかきか (一) 草 二 草 三 草 四  
草 五

隱岐

ふんちかきか (一) 草 二 草 三 草 四  
一葉

出雲

ふんちかきか (一) 草 二 草 三 草 四  
去留

丹後 又 津

ふんちかきか (一) 草 二 草 三 草 四  
馬吹

ふんちかきか (一) 草 二 草 三 草 四  
義徳関 李仁

全下摩

ふんちかきか (一) 草 二 草 三 草 四  
松と

全部上

ふんちかきか (一) 草 二 草 三 草 四  
眠奠

飛之多哥山

ふんちかきか (一) 草 二 草 三 草 四  
曾白

ふんちかきか (一) 草 二 草 三 草 四  
眠呼

そんがらうき若屋のかよふ松北野

赤明

はらうきあまの便とまゝの歌

信角

あんな白ゆきこれゆけうへを

悠之

新あまをくるとまゝ川海を流

若中

水あれせー類ーほりあけ

止琴

全右川

あんなあまのぼろあまのまゆり

南菜

全丹津

あんなあまのぼろあまのまゆり

其偏

全馬嶽

あんなあまのぼろあまのまゆり

芦聖

全畠田



山あがりあおはじきあまのこまきりくくあめ  
 のめあきあはしあまのこまきりくくあめ  
 ねあはじきあまのこまきりくくあめ  
 ねあはじきあまのこまきりくくあめ  
 ねあはじきあまのこまきりくくあめ  
 ねあはじきあまのこまきりくくあめ  
 ねあはじきあまのこまきりくくあめ

某のまをわくもわくあまのこまきりくくあめ  
 のめあきあはしあまのこまきりくくあめ  
 ねあはじきあまのこまきりくくあめ

蒲公草

陰州

せんあま  
 せんあま  
 せんあま



あま

一 種と植て蒲を造り存りしは  
牛年彼地より名傳とありし中と掃  
かしくしとて批田負いしやうら又此  
軍よりしきく膠漆此なかりしを  
ねく此と若も飛沈の海行るといふ  
おれとてわく茅盾と試るるといふ

人々をのりしを飛ぶ系一葉と見えれも  
やうにその地とてわく大の物とて白行り  
得りし物あり能借ありしとていふ  
しきとて伝ふ事とてわく一葉とていふ  
又今とていふことありしは  
しきとていふことありしは

4  
結  
北



119  
武江藩有教人... 幸に北條... 武江藩有教人... 幸に北條... 武江藩有教人... 幸に北條...



人々其れ... 武江藩有教人... 幸に北條... 武江藩有教人... 幸に北條... 武江藩有教人... 幸に北條... 武江藩有教人... 幸に北條...

十匹宛帯を巻一匹一日廻り此後京路  
な来て完服を纏りしより帯を一唱と  
しり帯の幅拂と振るとは辯し曰  
たると幅を帯とて若くは帯とて  
柄とて又帯とては帯とては帯とて  
不ふししと同時の事かといへ

きりふ何と承く白字の修りも  
柄敷す(或一物たり唯

壬午終

御書

麻又書







